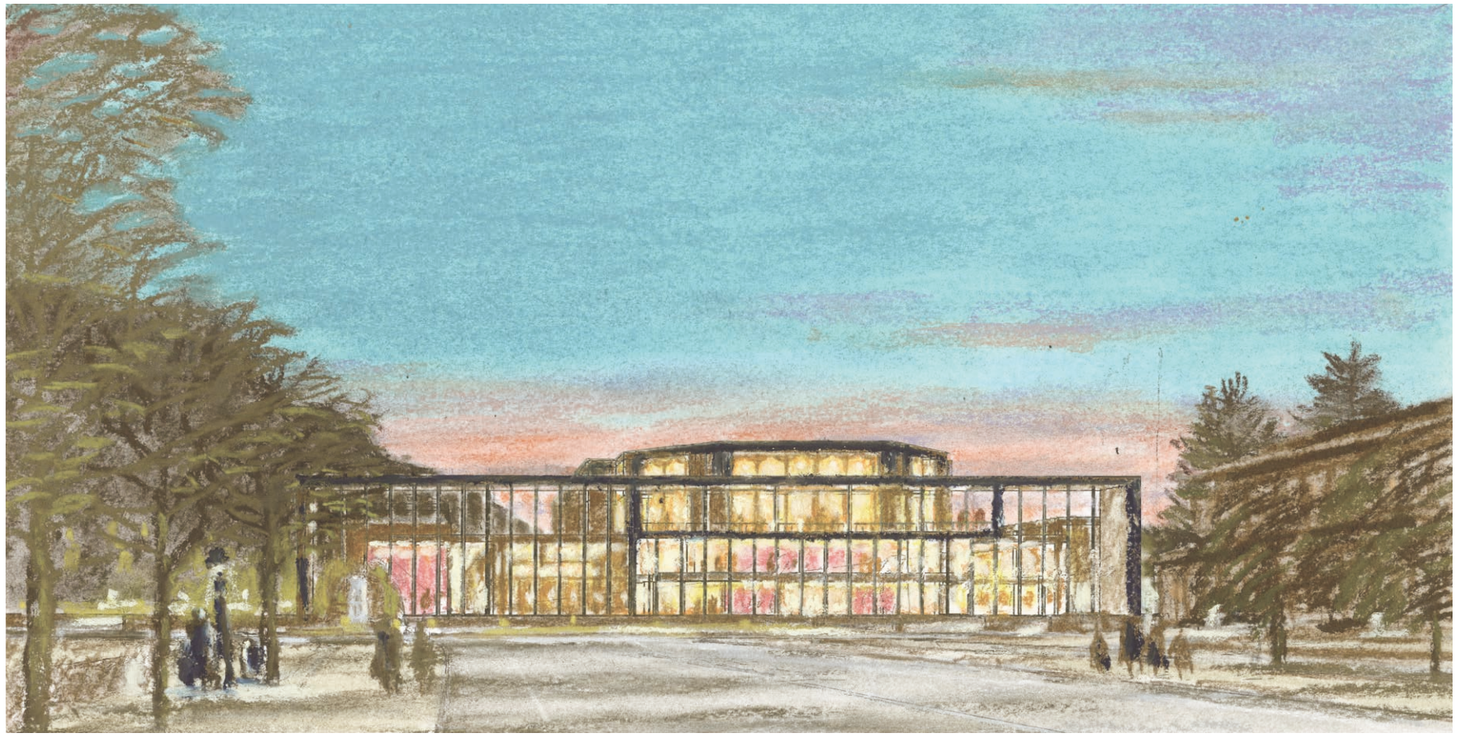
野口遵記念館建設

実施設計概要

設計：香山・小嶋・菊池・松下・コトブキ・オーツ特定建築設計共同体



2020年（令和2年）3月

問い合わせ先　延岡市教育委員会　野口遵記念館建設室
〒882-0822 延岡市南町2丁目1番地8（市役所南別館）
TEL：0982-20-5523 ／ FAX：0982-34-6438
E-mail：noguchi-k@city.nobeoka.miyazaki.jp

計画の概要

【別紙３】

野口遵記念館設計の基本的な考え方

市民に長く愛されてきた野口記念館を継承し、音楽を中心としたホールとして、また延岡城跡を中心とした歴史文化ゾーンの象徴的施設として、求められる役割を十分に果たせる機能と特徴を持った施設を目指しました。
あわせて、多目的に活用できるフリースペースを設け、各種イベントや市民活動等による活用も可能にすることとし、また、まちなかのにぎわい創出につながるよう、文化活動が外から見える形での施設整備を行います。
また、ギャラリーでは、野口遵翁の人間像をわかりやすく伝えることにより、夢や志に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちにも伝えていきます。

また、施設の長寿命化や環境配慮、施設管理に係るコスト縮減の検討に加え、館内のそれぞれの部屋の効率的な使用を可能にするとともに、景観形成地区内における高さ制限の中で、可能な限りの機能確保に努めています。
さらに、県内で最も森林面積が広い本市の特長を踏まえ、ホールやロビーの内装に地元の木材（杉・ヒノキ）を使用し、市民がふるさとに誇りを感じることができるような空間を目指しました。

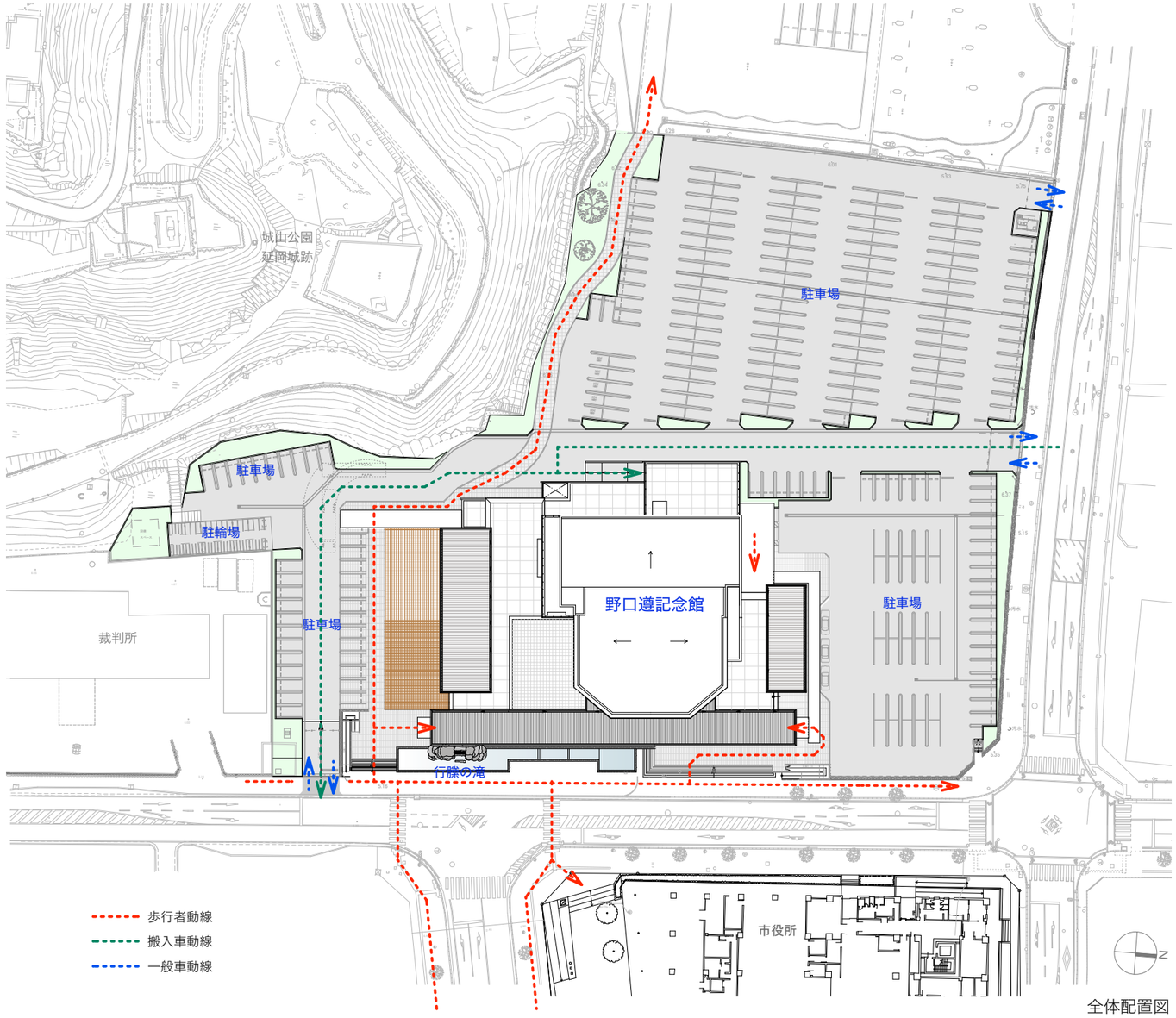
施設整備の目標

64年間にわたって、市民に愛された野口記念館の佇まいを継承しつつ、先進的な機能とデザインを採用することにより、市民が新しい「わたしたちの拠点」と感じられる施設をつくる。

明確な配置計画・動線計画や、あらゆる市民に使いやすく分かりやすい、ユニバーサルデザインを始めとして、多様な使い方が出来る居心地の良いフリースペース、練習室などと、先進的な性能を持つホールが、新たな文化芸術活動の創造・活性化を促す場となる。

最新かつ一級の性能を持つホールで、子供たちが一流の芸術に触れ、また、日常的に利用することで、自分たちの地域に誇りを持ち、将来の地域づくりを担う人材を育成する。

広域配置図



全体配置図

建物用途	劇場
工事種別	新築
階数	地上3階
敷地面積	14,310.89㎡
建築面積	3,264.17㎡（建ぺい率22.81%）
延床面積	4,363.17㎡（容積率30.49%）
最高高さ	15.095m（T.P.=21.000m）
構造	RC造、一部S造
駐車場	約280台（思いやり駐車場含む）

計画地	延岡市東本小路119-1（現地建替え）
用途地域	近隣商業地域、第一種住居地域
建ぺい率	許容75.90%
容積率	許容279.52%
防火地域	準防火地域、法22条区域
接道	北側：本小路通線　平均幅員17.52m 東側：亀井通線　平均幅員18.12m

景観計画

【別紙３】

・シンボルロードや市役所に面した東面は 、旧・野口記念館の大きなガラス面と白い門型による端正な佇まいを踏襲するとともに 、城山文化エリアの「門」となる象徴的なデザインとします 。
・北面、南面にも門型を形成し、城山側と駐車場側にも表情をつくります。
・景観条例上の限界高さまで突出する劇場のボリュームは半透明のガラスで覆います。漏れる照明でぼんやりと光り、水郷延岡の伝統「流れ灌頂」のイメージでまちを照らす灯とします 。
・コンクリート打放し壁は、一部に延岡杉による型枠を採用します 。
・市役所やシンボルロード、またはテラスなどと内部空間が容易に繋がるように開け放つことができる建具とします 。

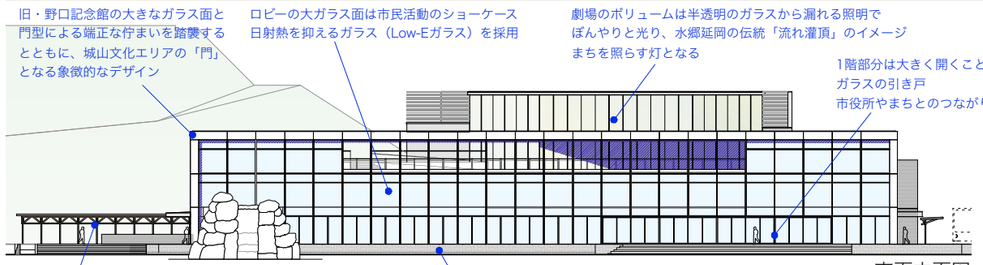
【延岡ならではのかたちをつくる要素】

伝統を継承し人々の新たな活動を包み込むかたち
かつて近傍に在った、延岡城下武家屋敷街区の入口「京口門」を象徴的に再現し、活動のショーケースとなる。

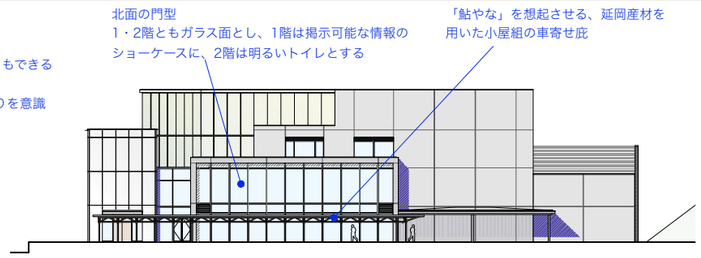
まちを明るく照らす象徴的なホールのかたち
水郷延岡の美しい伝統的風景を、ホール外観のイメージとして表現する。

文化芸術の礎となり、緑がまちに溶け込むかたち
建物各所から石（石垣）と緑がすけて見える。
日本の名城の一つ延岡城跡の豊かな「景観」と一体化した情景をつくる 。

北からの外観

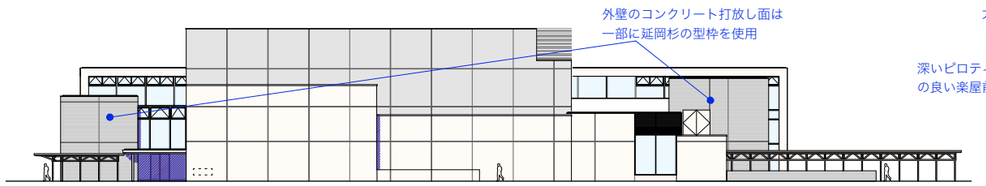


東面立面図

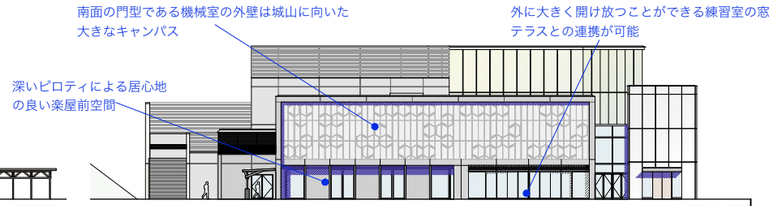


北面立面図

南からの外観



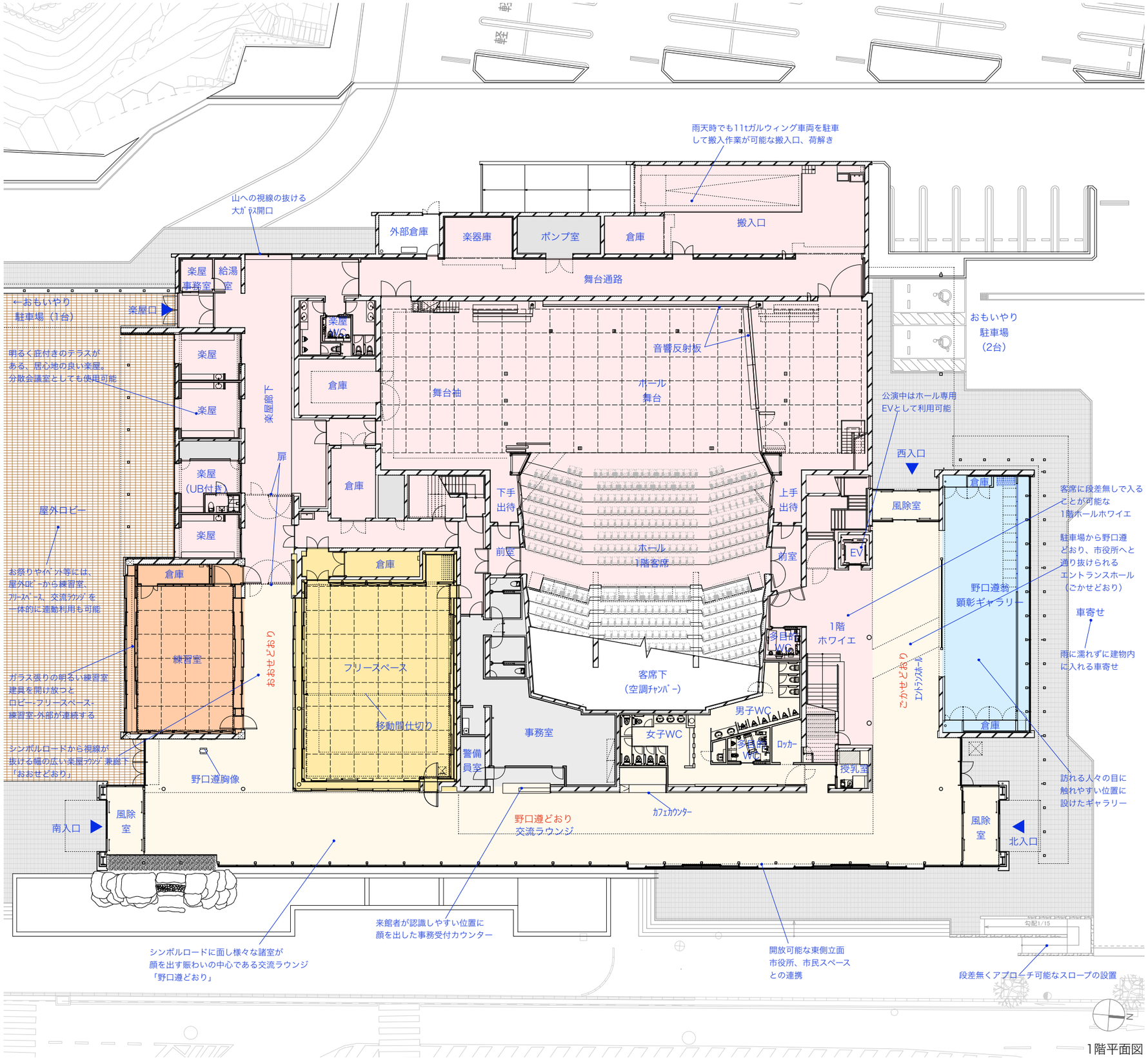
西面立面図



南面立面図

平面計画1

【別紙３】



1階平面図

【いつも賑わう施設をつくる仕掛け】

通り抜けとたまり場
南北と東西のそれぞれを貫く「とおり」を設け、各所にたまり場を設ける。人／もの／出来事を引き寄せる。

見る・見られる関係をつくる
地上階と最上階に外部テラスを設けて、城山やシンボルロードとの「見る／見られる」関係をつくる。

賑わいを連続させる
シンボルロード、城山や、カルチャープラザのべおか、内藤記念館等への回遊性をつくり出す。

野口遵どおり・ごかせどおり・おおせどおり（ロビー、廊下）

建物全体のロビーである3つの「とおり」は、南北と東西方向からアクセスでき、各所にたまり場を設けます。南面の玄関ロビー空間に「野口遵翁」の胸像を配置し、胸像の位置から野口遵どおりを北に向けて歩くと、「野口遵翁」を顕彰する展示ギャラリーへとつながり、全館をあげて、「野口遵翁」を顕彰する施設とします。

3つの「とおり」は、延岡産の杉材・ヒノキ材を利用し、かつての城下町に並んだ「町家」を現代的に解釈した意匠としています。

野口遵翁顕彰ギャラリー

来館者の目の触れやすい位置に配置し、野口遵翁の人物像の紹介を中心に、延岡において事業展開するに至った由来や、延岡が工業都市として発展していく黎明期の姿などを伝えます。

北面のガラス面の前に展示パネルを兼ねた移動間仕切りを設けており、これを開け放つことで自然光を取り入れることもでき、展示だけでなく親子向けのイベントや休憩スペースとして運用することも可能です。

※このギャラリーの展示設備については、詳細な設計を別途発注しています。

フリースペース・練習室

さまざまなイベント、多目的な市民活動、各種会議、学習スペース、特別企画展、会合等に利用されるとともに、簡易で小規模な舞台芸術公演（演劇、ダンス、パフォーマンス等）、電気音響を使用した音楽催物（ポピュラー、ジャズ、ロック等）、大ホールで行われる公演のリハーサル室や大楽屋としての利用、練習・稽古等のほか、パーティーやレセプション、学会、展示会場等、様々なジャンルの催物が開催可能な空間とします。

ロビーと外部に対して遮音性能を確保した2重のガラス戸は開け放つことも可能で、練習室-フリースペース-交流ラウンジが一体となったイベントも開催することができます。

またフリースペースは大きな移動間仕切りで2分割することができ、小規模な催しや楽屋としても利用しやすくなっています。

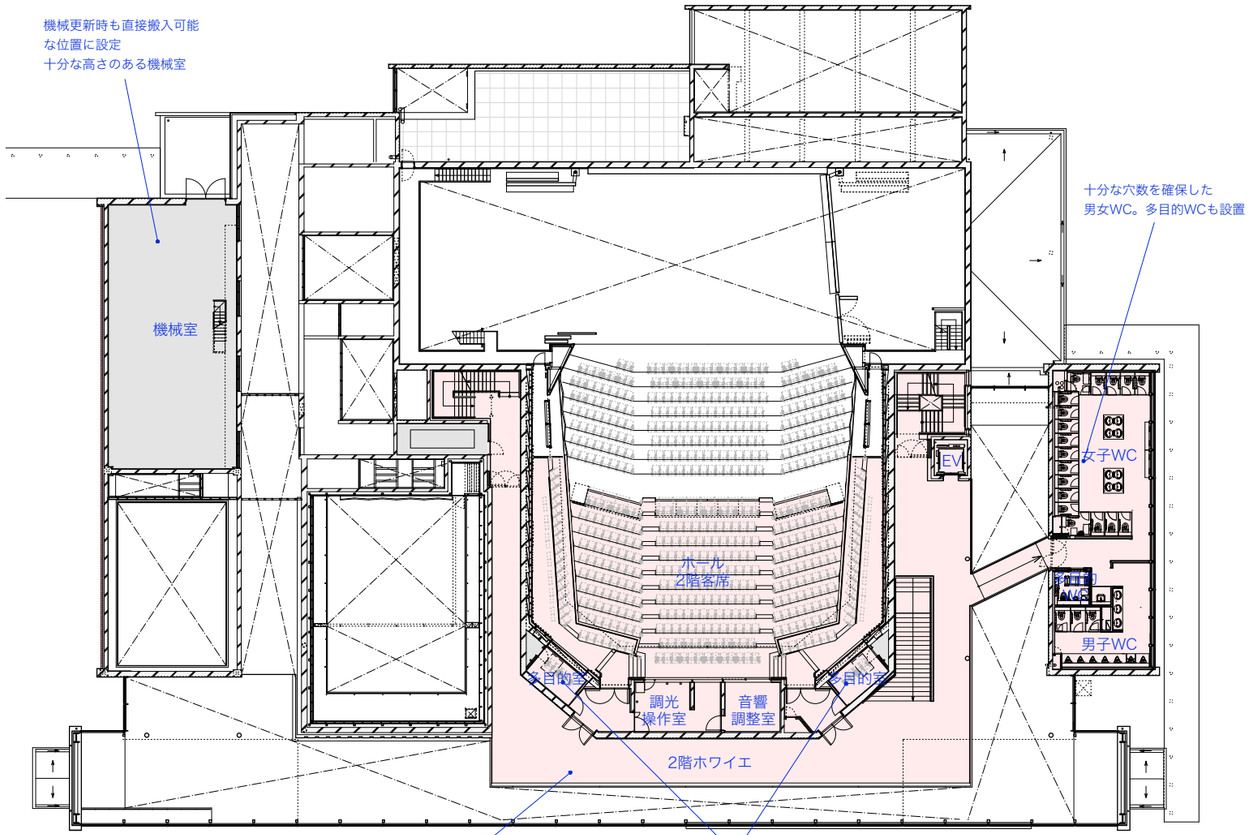
トイレ

通常時の交流ゾーン（ホール以外の部分）の利用者については、１階のトイレ使用を想定しており、一方で、公演等でホールを利用するときには、2階のトイレを使えるよう、動線や女性トイレの便器数にも配慮した計画としています。

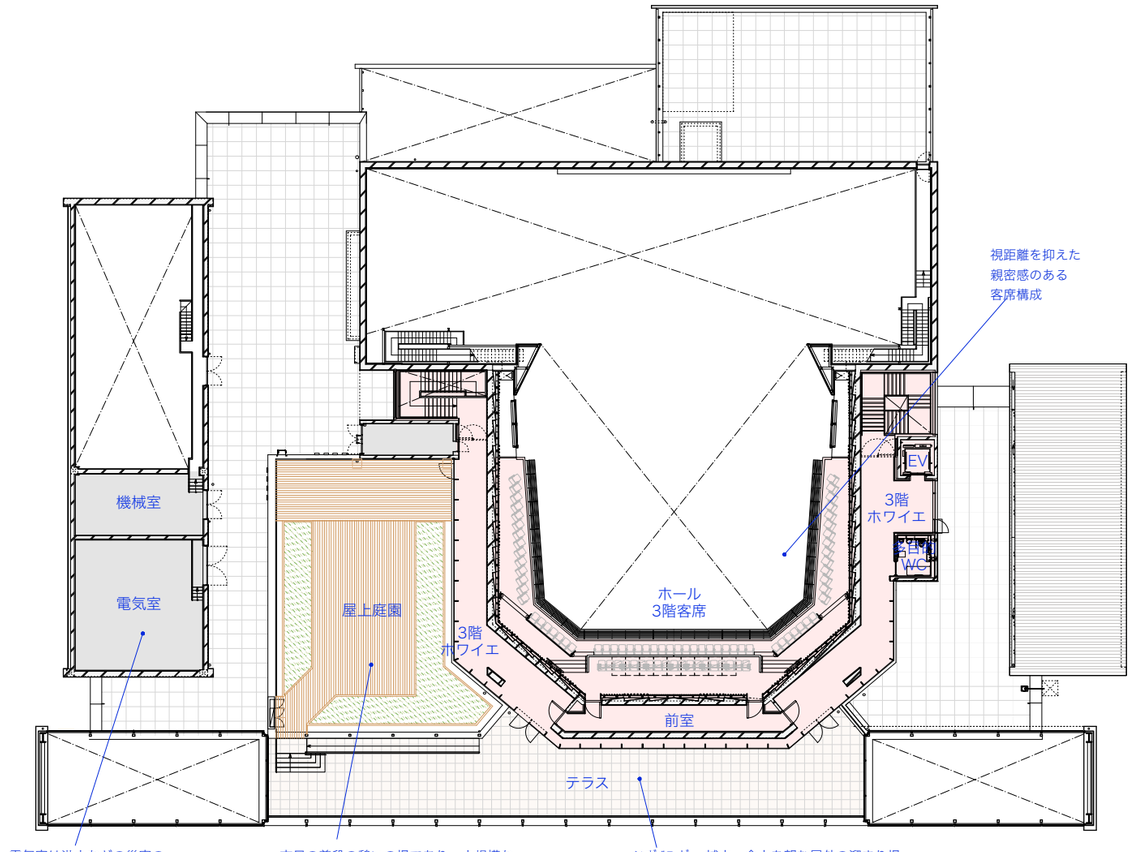
また、「誰でもトイレ（多目的トイレ）」は、1階に3箇所、2階に1箇所、3階に1箇所の計5箇所館内に設置し、幼児用の小さい便器や多機能ベッド、オストメイト等を設置します。

平面計画2

【別紙３】



2階平面図



3階平面図

野口遵どおり 南から

野口遵どおり 北から

外部テラス

地上階と最上階に、城山やシンボルロードと「見る・見られる」の関係にある外部テラスを設けています。
地上階においては、屋外イベントなどの会場や、練習室と一体化した利用などで、賑わいの仕掛けをつくるスペースとします。
最上階の外部テラスは、城山の三階櫓跡や、シンボルロードなどを眺めることができる憩いのスペースとして、また、まつり延岡や市庁舎でのイベント開催時などでは、賑わいの新たな拠点スペースとして活用できます。
また外部テラスにつなげて、デッキと緑化を用いた屋上庭園を設けます。市民の普段の憩いの場として、また小規模な屋外イベントが行えるように設えています。

【ユニバーサルデザイン計画】

高齢者や、障がいのある方等を含む不特定多数の方が利用することから、すべての利用者が、安全にかつ安心して快適に施設を利用でき、サービスを等しく享受できるよう、演者、観覧者を問わず全ての来館者に対して、ユニバーサルデザインにおける、先進的なモデル施設となるように計画しています。

ホール計画

【別紙３】

音楽を主目的とする、ホールに相応しい、明るく上品な空間を目指します。二層分の高さの壁が、客席の三方を取り囲み、親密な一体感のある空間を形成しています。この壁面に、市産材を利用した、木ルーバーを全面的に設置します。木ルーバーは、音を拡散させ、豊かな音響をつくりだすと同時に、木の素材感が、温もりのあるやさしい印象をつくりあげます。ルーバーは、斜材の枠組と縦の細丸太で構成され、延岡の伝統的風景である「鮎やな」をモチーフとした意匠としています。
客席椅子は、十分な前後・左右幅を確保しつつ、劇場としての一体感を感じられる寸法配置としています。ゆったりした座り心地を目指して生地は布とメッシュの二重素材とし、内側の布地にグラデーションのプリントをほどこした席をランダムに配置することで、延岡の風物詩である「流れ灌頂」の風景を彷彿させる意匠とする計画です。
フォロースポットレベルより上部は、ハイサイドライトとし、自然光を取り込むことが可能な計画としています。自然光の取り入れは、客席の明るさと快適性を高めるだけでなく、清掃時に照明をつける必要がなくなるので、省エネルギー化も期待できます。天井は、音響拡散効果を高めるために、波打つように連続する曲面形状としています。
舞台設備は、市民の文化芸術活動はもちろんのこと、多様な巡回公演等に対応する、柔軟かつ効率的に対応しうる舞台機能を実現させます。舞台のフローリングは、延岡産のヒノキを利用します。

■ホール機能詳細

[客席数]
1階　510席
2階バルコニー席　84席
　（立席28席、多目的席8席含む）
3階バルコニー席　81席
計　675席
※車いす席最大26席（固定席2席）
※客席は磁気ループコイル方式による聴覚障害者補聴誘導システムを計画

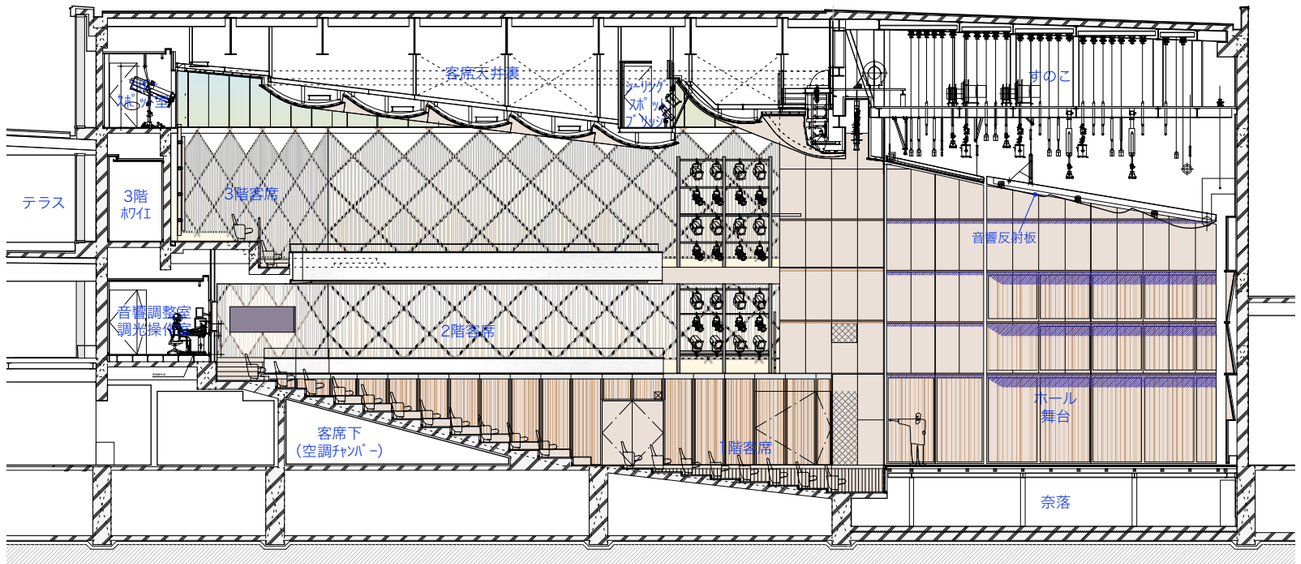
[座席]
座席幅：520
椅子背の間隔：950

[視距離]
最大視距離：21.9M
1階客最大視距離：20.7M

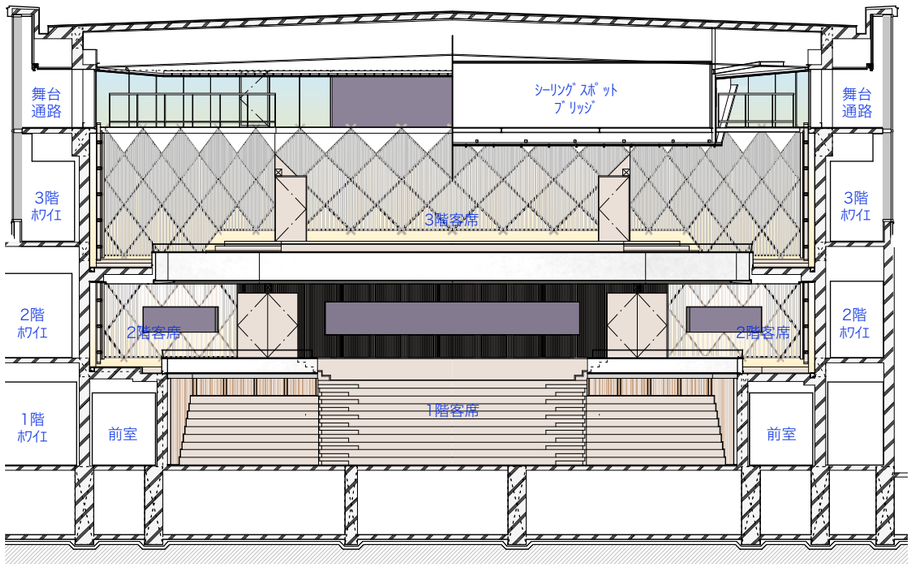
[プロセニアム詳細]
PW：9.5間
　袖幕で調整可
PH：6.2M～9.5M
　可動プロセニアム

[舞台サイズ]
主舞台
間口：８間
奥行き：６間

袖舞台
上手袖：５間×６間
　（含袖幕エリア）
下手袖：７間×６間
　（含袖幕エリア）



ホール長手断面図



ホール短手断面図